

「山川小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立山川小学校

2 学年・人数

4年生（計16名）

5年生（計12名）

6年生（計18名）

計46名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年7月～9月 総合的な学習の時間，体育の時間
(本校体育館，本校校庭)

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月20（日）山川小学校運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

山川棒踊り（やまがわぼうおどり）

(2) 由来

もともとは「福元棒踊り」と言われており，農家が豊作を祈り雨乞いを望む踊りであったといわれている。「福元棒踊り」は，一時途絶えていたが，「山川豊祭（ホゼ）」を復活させようということになり，平成6年11月23日（勤労感謝の日）に20年ぶりに山川豊祭（ホゼ）が開催された。その際に，豊祭につきものであった，福元棒踊りが復活し，その後山川小学校の児童が運動会で披露するようになった。

(3) 構成等

鉢巻き・襷・着物や浴衣・手甲・腰帯・前掛け・脚絆を身に付ける。

六尺棒六名一組で構成されており，その他，拍子木，太鼓，まといを使用する。

5 保存会や地域との連携の具体

上学年が運動会で披露するため，運動会の数ヶ月前に棒踊り保存会に児童練習日を伝え，指導に来ていただく。練習の初日は，4年生は初めて練習に参加することになる。そこで，保存会の会長が4年生に棒踊りの由来や構成などを説明する時間を設けている。運動会前は，保存会と連絡を取り合い，着物や襷などの身に付けるものを児童の体格に合わせて見繕ってもらう。また，運動会当日は，唄者にも来ていただき生歌で棒踊りを披露することになっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、「棒踊り保存会」と十分に連携を取るようになっている。また、今年度は感染症対策で運動会のみでの披露となったが、地域の祭や敬老会などの地域でのイベントでも披露している。継続して地域、保存会、学校が連携して棒踊りを伝承していける体制を整えた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



運動会での発表の様子

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

4年生は初めての棒踊りだったので、高学年に色々教えてもらっていた。今回は、最高学年として4年生に丁寧に踊り方を教えることができた。大人になって、自分の子どもたちに棒踊りを教えたい。

【教職員】

子どもたちは、運動会の数ヶ月前から練習を重ね、保存会の方からの指導を熱心に聴いている。保存会の方や保護者も協力的で、地域一丸となってこの棒踊りを継承していきたいという思いが伝わってくる。山川地区の伝統芸能である棒踊りを通して、山川に誇りや愛着を持ってほしいという願いが込められているのだと思う。

【保存会から】

十数年前から棒踊りを山川小学校の運動会で披露することとなったが、毎年、子どもたちが意欲的に取り組んでくれてうれしい。この棒踊りを今後も様々な形で継承していきたい。

【地域の方から】

毎年、運動会や山川みなと祭で子どもたちが棒踊りを披露するのを楽しみにしています。子どもたちが棒踊りで地域の様々なイベントに参加していく中でこの地域のことを知り、地元を愛する大人になってほしい。